

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870102807		
法人名	社会福祉法人 安寿会		
事業所名	グループホームあんじゅ		
所在地	松山市安城寺町1429番	(電話)	089-978-6855
管理者	野田 淳子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 10 月 2 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 20 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 11 人, 非常勤 13 人, 常勤換算	17.9 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護 1	3 名	要介護 2	9 名
要介護 3	4 名	要介護 4	10 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 99 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑の残る住宅地に、運営法人の他施設に隣接して3ユニットの平屋建てのホームがある。開設して6年が経過し、利用者も職員も落ち着いた生活を送っているが、機能が低下していく利用者の心身の支援はより見極めが求められている状況にある。夜勤専門の職員の導入の効果もあつた離職者が少なく、計画的なユニット間の異動により、気分や環境が変わり、得意分野の役割分担が行えている。同法人他施設と連携して各委員会を設けて活動している。建物の窓越しに山や田園風景が広がり、季節を感じることができる。全体にゆったりと広く、居間や居室は床暖房を設置している。庭や駐車場も自由に散歩でき、他の散歩コースも近所の方や同法人の職員の協力で楽しむことができている。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

一年をかけて、全職員で検討してホームの理念を作成している。利用者を中心として家族・職員・地域の方の繋がりを大切にしているものとなっている。今後は自分たちの作った理念としてより馴染み深くなるよう共有を図ることを期待する。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

全員で自己評価に取り組み、会議で検討してまとめている。評価の意義を理解しており、日々の業務の振り返りと捉え、改善に向けて取り組む姿勢がある。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの状況報告をすることはホームを理解してもらうのに役立っており、会議を通じて地域行事等の情報収集等を行っている。また、固定メンバーだけでなく、警察署・学校関係者・家族・利用者等にも出席を働きかけている。防災・感染防止・個別ケア・年間計画と反省等、具体的な意見を活かした取り組みに努めている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の来訪時には情報交換し、電話や手紙等でも生活ぶりを伝え、家族から出された意見等は職員間で共有・検討してできるだけ早く対応している。玄関に意見箱を設置し、外部への苦情申し立て、対応の方法も明示している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

運営推進会議や地域行事への参加を続けることで地域との繋がりができ、情報交換の機会が増えてきている。ホームの役割を伝えながら、近所の方や学校関係者等との関わりを大切にしている。今後はより利用者が主役となれる取り組みの検討が課題となる。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	GHあんじゅ
(ユニット名)	やすらぎ
記入者(管理者)	
氏名	大井田 洋子
評価完了日	平成 20 年 9 月 1 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ・理念、運営方針を誰もが見える場所へ掲示している ・H20.8月末に、GH独自の理念完成予定  (外部評価) 職員全員で検討を重ね、地域との関わりの中でその人らしい生活を支えていく理念をつくっている。平成20年9月に完成したばかりであり、今後は共有を図りながら具体的に進めていきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・理念、運営方針をかかげ1回/週復唱している ・ケアプラン立案時にも取り入れ実践している  (外部評価) 玄関や居間に理念や方針を掲げ、ミーティングや会議で機会あるごとに確認し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ・入居申込時、見学时パンフレットにて説明している ・運営推進会議での説明 ・各ユニットに掲示する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ・朝、夕顔を合わせた時や散歩時に挨拶をする ・行事への参加の呼びかけ（ポスターの掲示） ・運営推進会議への参加	※	・クラブ活動や行事等のポスターを近くのスーパー、施設に貼り参加を呼びかける
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ・ボランティア委員会を通しての久枝校区文化祭、地域清掃への参加 ・月1回の高木集会所へカラオケ参加（地域のお年寄りとの交流）  (外部評価) 地域の文化祭や清掃活動に参加している。月一回の集会所でのカラオケ大会は地域のお年寄りとの交流の場となっている。ホームの前が中学校の通学路で、体験学習の受け入れ後の訪問もあり、子どもたちの登下校時の見守りも計画している。近所の方の理解があり、作物の行き来があったり見守りをしてもらうこともある。	※	・通学路に立ち子供の見守りを入居者・職員とでおこなってみる ・野菜の販売
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ・運営会議の実施 ・ボランティア委員会を通しての地域の行事（久枝地区文化祭）、清掃に参加する ・和気小学校生徒との交流	※	・詩吟、お花、押し花クラブへの地域の方への参加を呼びかける（ポスターを貼る）
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ・毎年自己評価、外部評価を実施し結果をふまえ改善点を職員間で話し合い取り組んでいる  (外部評価) 職員は自己評価することで、より評価の理解が深まっている。この一年は理念の検討を続け、ホームの振り返りや支援の方向性をまとめ、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・運営推進会議での意見、内容をまとめサービスの向上に活かしている  (外部評価) 会議の案内は前もって議題を提示し、意見を出してもらっている。内容によっては消防署・警察・学校・地域代表者等へも参加を働きかけている。提案や意見はできるだけ速やかに対応するようにしている。内容によっては職員間で共有し、日々の支援に活かしている。	※	・1年間の内容を決めその時の内容に応じ消防署、警察、小学校の先生方等、メンバー以外の方にも参加してもらい意見を聞く
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ・研修会への参加 ・電話でのやり取り等  (外部評価) 時々の情報交換をはじめ、種々の手続きで行き来する機会を設けて連携を図っており、実習も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し、学ぶ機会を持ち、必要な方には説明するようにしている		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待についての勉強会をおこなったり、虐待がない施設作りを実施している ・マニュアル作成 ・研修会への参加 ・虐待に関する自己評価の実施（年2回、6月、12月）		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時、十分な説明をし理解を得る ・定期的に家族と話をする機会をもうけている		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話を十分聞くようにしている ・ユニット会、カンファレンスを通し解決している ・利用者が意見を言える、会の開催		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・入居者専用の小づかい張できちんと管理し、家族来所時説明しているあ(8月・12月家族確認の実施) ・来所持、ケアプラン説明時密に連携を取っている  (外部評価) 家族等の来訪は多く、情報交換はその都度できている。家族等のおられない方もいるが、個々に工夫しながら連絡、報告している。来訪時のほか、その都度電話や手紙等で報告している。金銭の自己管理が難しい利用者については、出納帳を家族に確認してもらうようにしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・アドバイスボックスの設置、苦情解決マニュアルを作成し体制を整えている ・入居相談時、家族に説明している ・家族会の実施  (外部評価) 家族との情報交換時の意見等は職員間で共有し、検討している。家族会は4か月に1回開催している。利用開始時にはホーム内外への相談苦情申し立ての方法も説明し、苦情マニュアルも作成している。玄関には「アドバイスボックス」も設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・ユニット会やカンファレンス等話し合う機会をもうけ意見を聞き検討している ・年2回の面談の実施		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ・3ユニットの職員が常に協力体制にある ・カンファレンスの実施		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ・異動は年2回各ユニット1名づつとしている ・なるべく馴染の関係を大切に利用者のダメージを少なくするよう配慮し実施している ・家族へも意見を聞く  (外部評価) 職員の退職はあまりなく、異動については家族へのアンケート等も参考に年2回程度、1～2名の異動を行っている。「皆に声をかけてもらえて良い」との意見もあり、異動による利用者への影響は個々に配慮するよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・段階に応じた外部研修への参加 ・内部勉強会は毎月1回実施、法人全体の勉強会は1回/月実施 ・段階に応じた資格取得研修への参加  (外部評価) やさしさ・明るさ・元気さ・やる気を尊重し、ホーム内と法人内で定期的に月に1回ずつ研修会を開催している。外部研修は職員ごとのレベルに応じた内容に、参加費は部分的にホーム持ちで参加している。研修参加後は報告書を提出し、内容を他の職員に伝達している。新規採用時は各項目でマニュアルに沿って指導している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・研修会等で意見交換したり電話等での意見交換をしている  (外部評価) 同法人の3つのホームとは職員や利用者も交流している。他のホームとは会議や研修会への参加等で、管理者同士の交流や情報交換を通じて具体的に学び合っている。他法人でも親しい施設が数か所あり、交流の機会を設けている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ・年に何度か職員間の交流を図るレクの実施 ・定期的な面談をおこなったり、職員から申し出があった時には、時間をとり話をし対応している ・年1回自己評価の実施		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) ・定期的な面談や日頃の勤務状況に対して話す機会がある		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ・まず本人面談を行い、出来る限り詳細な情報と現在の状況を把握するようにしている		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ・運営規程及び重要事項にそって当施設の内容を説明し、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを理解するようにしている ・食事を一緒にしたり、宿泊できることの説明をし、職員の対応等を実際に見てもらう		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人家族が望んでいることをケアプランに取り入れ実施する		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ・見学时、利用するまでに何度か当施設に来てもらい、職員他入居者とお茶を飲んだり会話したりと体験利用し、入居につなげている  (外部評価) 何度か訪問してもらい、他の利用者とお茶を飲んだり会話をしながら馴染めるように配慮している。同法人の他施設からの利用となる場合はすでに顔馴染みになっていることが多い。家族の情報や協力を大切にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方、料理（材料の切り方、材料、味付）等を会話の中から学び一緒に実施する ・本人の希望にそった外出の実施（墓参り、自宅外出等)  (外部評価) 家族の情報や日頃の生活から本人のリズムを把握し、個々に合わせた支援を心がけている。身体機能の低下があっても意欲があれば参加できるようなプログラムなどにも工夫している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・生活支援型ケアプランの活用（定期的な病院受診、理美容院への外出、墓参り、自宅への外出等)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ・本人、ご家族が疎遠にならないよう支払は窓口にて実施し、その際に面会をしていただく ・本人の状態を電話連絡やハガキで知らせる		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・理容美容院への外出 ・お墓参り、自宅への外出 ・知人、友人の訪問 ・同窓会等への参加		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し、入居者の性格、行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している ・仲の良い方がソファで会話したり堀ゴタツでお茶を飲んだりでできるよう配慮する		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) ・現在どのような生活を送られているか等ケアマネを通して情報を得る		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・何をしたいのか、外出はどこに行きたいのか、会いたい人等、情報を集め、本人・家族・職員で話し合い、ケアプラン立案時に取り入れるようにしている  (外部評価) 家族の協力や職員の情報共有により、本人の希望が表出できる支援を心がけている。行きたい所、会いたい人、楽しみごとなどについて、時には家族の協力も得ながら実現に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを利用し、情報収集をし、職員間で共有してケアプランに取り入れ実施している		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ・日々の状態を観察し、カルテへ記入(状態を共有) ・残されている能力をいかせる生活支援の実施(せんたく物たたみ、清掃、材料切等)		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ・ケアプラン立案時、6ヶ月毎、変更があった時、担当者会議の実施(本人・家族・ケアマネ・計画作成担当者・職員が参加)  (外部評価) 事前に本人や家族の意見を聞いており、利用者の担当者が中心になって介護計画を立て、カンファレンスで検討して作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ・月2回、3ヶ月、6ヶ月と定期的に評価、見直しをしている、その都度家族の参加は連絡により対応している  (外部評価) 計画の評価は月2回・3か月・6か月と定期的実施している。必要に応じてカンファレンスで計画を見直ししており、家族へもカンファレンスへの参加を呼びかけているがまだ参加が充分とは言えず、今後も継続して取り組む予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・記録は毎日残し、個別記録に記入している ・見直し評価時活かしている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ・家族宿泊、面会、外出、ユニット替え等、本人・家族の状況に応じ対応している  (外部評価) 家族の宿泊・自宅訪問・墓参り・公民館活動・個々の外出・病状の変化への対応等、家族と協働しながら、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ・運営推進会議へ民生委員・入居者・家族・近隣者・包括支援職員・市役所職員・職員で実施、内容により警察・消防・小中学校の先生に参加依頼をする		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ・安寿荘デイサービスへの通所		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) ・運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをもらっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ・主治医、協力病院と連携を密に取り適切に医療を受けている  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を利用している。また、協力医療機関との連携もとれており、管理者や看護職が中心となって関わり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) ・専門医の往診を受け、職員へのアドバイスを、診断、治療を受けている (2回/月来居あり)		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ・常勤職員に看護職を配置し、常に連絡が取れ、適切なアドバイスを受けている ・日常の健康管理、医療活用の実施		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ・入院された場合は主治医と連携を密に取り情報交換や相談もし早期退院に向けて努力している (面会と出来る限り頻繁に主治医の意見を聞くようにしている)		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ・マニュアル作成し家族にも説明し理解を得て全員で方針を共有している  (外部評価) 利用開始時や状態の変化に合わせて、早い時期から話し合っている。職員はマニュアルを通じて理解しているが、実際の対応事例が少なく不安はある。ただ、本人や家族の希望があってホームで対応できる状況であれば真摯に対応したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ・マニュアルの作成 ・入居時家族への説明 ・重度や終末期に向けてスムーズに進めれるよう職員教育及び準備をしている		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ・必要時他の事業所等と情報交換をしていく ・本人が混乱をおこさないよう職員も協力し住み替えによるダメージを防ぐ		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ・日常話し方には十分注意しケアしている ・個人情報の管理マニュアルに沿って、職員一人一人がきちんとしている  (外部評価) 職員は、接遇をはじめ個々の利用者の誇りを大切にすることを学習し、互いに注意し合っている。記録類は個人情報に配慮して適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたりわかるよう説明をおこない、納得し暮らせるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに対して耳を傾け、希望にそったケアを実施している ・生活支援型ケアプランの活用  (外部評価) 一人ひとりのペースを尊重しており、ホームとしてある程度のスケジュールはあるが、基本的に本人の希望に応じた支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ・いきつけの店での散髪の実施 ・本人が選ぶことができる方は選んでもらう ・外出できない方は、定期的に訪問してもらい散髪を実施  (外部評価) 献立は利用者の希望を取り入れながら職員が一週間ごとに作成しているが、頂き物等の都合で変更することもある。3ユニット毎に献立はまちまちで、食事形態も個々に工夫している。食材の買出し、作物の収穫、簡単な調理、配膳や片付け等、希望や力に応じて役割を持ってもらっている。必要に応じて酒やタバコを楽しむことも支援することがある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人に合った食事の提供をおこなっている ・下準備、片付けも一緒にしている  (外部評価) 献立は利用者の希望を取り入れながら職員が一週間ごとに作成しているが、頂き物等の都合で変更することもある。3ユニット毎に献立はまちまちで、食事形態も個々に工夫している。食材の買出し、作物の収穫、簡単な調理、配膳や片付け等、希望や力に応じて役割を持ってもらっている。必要に応じて酒やタバコを楽しむことも支援することがある。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ・行事には、ビール・お酒を準備し飲んでもらう ・個人で持って来られる方もおり、家族と相談し飲んでもらう ・喫煙場所を決め自由に吸えるよう管理は職員がする		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズにできるよう支援している ・その人に合ったオムツの使用		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ・週2回の入浴実施 ・その人の希望の時間帯の入浴実施 ・季節に応じた入浴の工夫（ゆず湯等）  (外部評価) 週2回以上を基本としているが、毎日希望する方、汗をかいた時、汚れた時等、個別に対応している。次第に身体機能が低下しているため、支援の方法にさらなる工夫が必要となっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) ・その人にあった時間に就寝し起きてもらうよう配慮している ・1時間毎の巡回の実施（利用者の安眠をさまたげないよう） ・自由に各居室に帰り休息してもらう		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ・ドライブ、外食は希望に応じて実施 ・一人一人の力が発揮できるよう役割をみつける（洗濯ほし、たたみ、材料切り、食器洗い、清掃等） ・レク活動への参加を呼びかけている（詩吟、カラオケ、お花、押し花等）  (外部評価) 日々の生活の中で把握したことから、具体的に楽しみ等を見つけるように努めている。ドライブ・カラオケ・伊予漫才を共に楽しんだり、絵・押し花・詩吟・お花の稽古、話し相手等ボランティア等の活動を支援している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時等、力に応じて自分で管理し、支払うよう支援している ・喫茶あんの利用（自己負担金にて支払う）		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ・毎日の買物に入居者1名～2名と職員が出かける ・希望があれば職員、家族の対応で実施している ・個々の散歩も自由に行っている  (外部評価) 個々の散歩や買い物はできるだけ自由に行っている。危険な場所をチェックしたり、警察や近くにある同法人他施設に写真や本人の情報を伝えている。次第に身体機能が低下しており、車いすを利用したり、天候への配慮の必要性が増すなど制限が出てきている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ・季節に応じた場所への外出の実施 ・自宅外出、外泊、墓参りには家族、職員が対応し実施している		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る方は見守りをおこなう ・話だけしたい方には職員が手伝い支援している ・手紙がきたら職員が読み本人に聞かせてあげる		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ・気軽に訪問してもらいお茶を出しゆっくりと過ごしてもらおう（各居室でもリビングでも利用可）		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・研修会や勉強会等を通し、正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・玄関には昼間鍵をかけず、出入り自由になっている ・居室にも鍵はない  (外部評価) 夜間以外は鍵を掛けておらず、日中は自由に出入りできる。ユニットごとに玄関があり、1か所の玄関とフロアは地域の方にも開放している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ・職員間で連携を密に取り、利用者の所在確認をし、安全に配慮している		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) ・すべての物を取り除くのではなく、職員が注意し危険を防ぐ取り組みをしている ・出来るだけ家庭に近づけることを心がけている		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ・ヒヤリハットを通し、カンファレンスをおこない事故につながらないように取り組んでいる ・事故防止委員会の設置、看護、介護マニュアルによる職員教育		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・勉強会実施 ・常に看護師と連絡が取れるようにしている		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ・マニュアル作成し全職員が常に把握している ・避難訓練は年2回実施、近隣にも参加を呼びかけている  (外部評価) 年2回の防災訓練を消防署の指導の下で実施している。近所の片にはチラシ持参で参加を呼びかけている。近隣には同法人施設が充実しており、避難場所や避難時の協力が得られる。マニュアルも作成しているが、連絡網の整備は今後の取り組み課題となっている。	※	今後はより具体的に、火災だけでなく非常災害時の対策を検討したり連絡網を整備して、災害時の対応がより確実なものとなるよう取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) ・家族へ十分説明し理解を得る ・ヒヤリハット内容を全ユニットで共有している ・日中居室、リビングにて過ごしたり、散歩に行ったり、クラブ活動も自由に参加してもらう		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) ・日々の状態を把握しカルテに記入 ・診察が必要な時は主治医、家族に速やかに連絡をとり対応している		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・定期的に処方されている内容を全職員が把握する ・服薬確認は職員が行う ・必要に応じて医師に指示を受ける		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) ・毎日チェックをし記録している ・運動、食事、水分補給に努め排便がスムーズに出来るように努力している ・内服薬の調整を行っている ・散歩を行っている		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・必要に応じて歯科受診		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時、10時・3時の水分補給 (1500ml / 日目安) ・摂取量のチェック表への記入  (外部評価) 日々の食事摂取量をチェックし、毎食時と10時、3時には水分摂取して必要量の確保に努めている。時々摂取カロリーや栄養バランスを数値として把握してチェックするようにしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・勉強会の実施 ・清掃の徹底、手洗いうがいの徹底		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ・毎日の調理器具の消毒、清掃 ・毎日買物に行き、肉・野菜はメニューに応じて新鮮なものを買って使用する。魚は配達してもらって使用している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ・玄関には花を植え、周辺にも植木があり玄関戸も家庭と同様の物を使用		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内、リビング等、カーテンやレースカーテンは光や音に配慮し、又、リビングには季節のかざりをつけ、居心地よく過ごせるようにしている  (外部評価) ゆったりして床暖房が設置されたリビングは、動きやすいようにテーブルを配置しており、季節の飾りはすっきりしている。畳コーナーの掘りコタツやソファはそれぞれに寛ぐことができる。トイレや浴室はゆったりとしており、要所に手すりを配して安全にも配慮している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている ・リビングにはソファを置き、たたみの所は堀ゴタツがある		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には馴染みの家具を持参してもらい家族の写真を飾ったりし、居心地良く生活できるよう工夫している  (外部評価) 仏壇・タンス・衣装ケース・写真や絵・趣味の作品・テレビ等、利用者それぞれに使い慣れた物や趣味の品を持ち込み、馴染みある居室となっている。押入れ等の整理は家族や職員が手伝って季節ごとに対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ・1日に何度か換気を実施 ・冷暖房・床暖の温度調整の実施(冬期20℃ 夏期28℃)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には手すりの設置 ・バリアフリーの作りなど、出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) ・見やすいカレンダーの設置 ・混乱をしないよう職員が声かけ見守りを常にしている		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ・外に散歩に出かけたり、敷地内での畑仕事と一緒に رفتったりしている		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	・ケアプラン作成時、一人一人の情報を本人や家族より収集し、本人の思いや願い暮らし方を十分考え作成し実行している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	・お茶を飲んだり、会話をしたり、ソファに座りテレビを見たりし、また、散歩をしたりして過ごす時間を作っている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・日中居室、リビングにて過ごしたり散歩したりと自由に過ごしている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・本人にあった支援をするよう手を出しすぎず出来ないことは介助するようにしている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・外に出て行きたい方には職員がついて行ったり、車で行かないと行けないところは時間等を考慮し対応している ゆるす限り家族と一緒に外出できるよう連絡し、協力を得ている
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・毎日理事長（医師）の訪問もあり、何かあれば協力医療機関との連携も24時間取れるようになっている また、看護師と24時間連携をとれるようにしている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ケアプラン作成時、担当者会議時に要望を聞き、プランに取り入れ支援している
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	・家族会、面会、電話連絡時等、職員から何気なく声かけをしたり、担当者会議等を利用し話を聞くようにしている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	・入居相談時、面会時間を説明し気軽に面会できるようにしている

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	・運営推進会議を通しグループホームを十分理解してもらっている ・行事への参加の呼びかけをおこなっている
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ユニット会をおこない、一人一人が意見を言える場を持っている ・笑いが多く職員が協力し仕事できている ・休みの希望も月2回取り入れリフレッシュする
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ケアプラン評価時等の話の中で満足してもらっている ・外出評価のアンケート等からも満足してもらっている ・外部の方達に入居者が明るく活き活きしている等、評価をいただく
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	・ケアプラン評価時、家族会等の話の中で満足してもらっている ・外部評価のアンケート等からも満足していただいている結果を得ている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・職員が明るく楽しく仕事ができそれが一人一人のケアにも活かされている。(職員の入れ替わりが少ない)
- ・常に理念、運営方針を頭におき、満足していただける施設づくりをおこなっている。



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 GHあんじゅ

(ユニット名) いこい

記入者(管理者)  
氏名 高橋 幸子

評価完了日 平成 20 年 9 月 1 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ・理念、運営方針を誰もが見える場所へ掲示している ・H20.8月末に、GH独自の理念完成予定  (外部評価) 職員全員で検討を重ね、地域との関わりの中でその人らしい生活を支えていく理念をつくっている。平成20年9月に完成したばかりであり、今後は共有を図りながら具体的に進めていきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・理念、運営方針をかかげ1回/週復唱している ・ケアプラン立案時にも取り入れ実践している  (外部評価) 玄関や居間に理念や方針を掲げ、ミーティングや会議で機会あるごとに確認し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ・入居申込時、見学時パンフレットにて説明している ・運営推進会議での説明 ・各ユニットに掲示する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ・朝、夕顔を合わせた時や散歩時に挨拶をする ・行事への参加の呼びかけ（ポスターの掲示） ・運営推進会議への参加	※	・クラブ活動や行事等のポスターを近くのスーパー、施設に貼り参加を呼びかける
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ・ボランティア委員会を通しての久枝校区文化祭、地域清掃への参加 ・月1回の高木集会所へカラオケ参加（地域のお年寄りとの交流）  (外部評価) 地域の文化祭や清掃活動に参加している。月一回の集会所でのカラオケ大会は地域のお年寄りとの交流の場となっている。ホームの前が中学校の通学路で、体験学習の受け入れ後の訪問もあり、子どもたちの登下校時の見守りも計画している。近所の方の理解があり、作物の行き来があったり見守りをしてもらうこともある。	※	・通学路に立ち子供の見守りを入居者・職員とでおこなってみる ・野菜の販売
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ・運営会議の実施 ・ボランティア委員会を通しての地域の行事（久枝地区文化祭）、清掃に参加する ・和気小学校生徒との交流	※	・詩吟、お花、押し花クラブへの地域の方への参加を呼びかける（ポスターを貼る）
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ・毎年自己評価、外部評価を実施し結果をふまえ改善点を職員間で話し合い取り組んでいる  (外部評価) 職員は自己評価することで、より評価の理解が深まっている。この一年は理念の検討を続け、ホームの振り返りや支援の方向性をまとめ、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・運営推進会議での意見、内容をまとめサービスの向上に活かしている  (外部評価) 会議の案内は前もって議題を提示し、意見を出してもらっている。内容によっては消防署・警察・学校・地域代表者等へも参加を働きかけている。提案や意見はできるだけ速やかに対応するようにしている。内容によっては職員間で共有し、日々の支援に活かしている。	※	・1年間の内容を決めその時の内容に応じ消防署、警察、小学校の先生方等、メンバー以外の方にも参加してもらい意見を聞く
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ・研修会への参加 ・電話でのやり取り等  (外部評価) 時々の情報交換をはじめ、種々の手続きで行き来する機会を設けて連携を図っており、実習も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し、学ぶ機会を持ち、必要な方には説明するようにしている		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待についての勉強会をおこなったり、虐待がない施設作りを実施している ・マニュアル作成 ・研修会への参加 ・虐待に関しての自己評価の実施（年2回、6月、12月）		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時、十分な説明をし理解を得る ・定期的に家族と話をする機会をもうけている		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話し話を十分聞くようにしている ・ユニット会、カンファレンスを通し解決している ・利用者が意見を言える、会の開催		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・入居者専用の小づかい張できちんと管理し、家族来所時説明しているあ(8月、12月家族確認の実施) ・来所持、ケアプラン説明時密に連携を取っている  (外部評価) 家族等の来訪は多く、情報交換はその都度できている。家族等のおられない方もいるが、個々に工夫しながら連絡、報告している。来訪時のほか、その都度電話や手紙等で報告している。金銭の自己管理が難しい利用者については、出納帳を家族に確認してもらうようにしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・アドバイスボックスの設置、苦情解決マニュアルを作成し体制を整えている ・入居相談時、家族に説明している ・家族会の実施  (外部評価) 家族との情報交換時の意見等は職員間で共有し、検討している。家族会は4か月に1回開催している。利用開始時にはホーム内外への相談苦情申し立ての方法も説明し、苦情マニュアルも作成している。玄関には「アドバイスボックス」も設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・ユニット会やカンファレンス等話し合う機会をもうけ意見を聞き検討している ・年2回の面談の実施		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ・3ユニットの職員が常に協力体制にある ・カンファレンスの実施		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ・異動は年2回各ユニット1名づつとしている ・なるべく馴染みの関係を大切に利用者のダメージを少なくするよう配慮し実施している ・家族へも意見を聞く  (外部評価) 職員の退職はあまりなく、異動については家族へのアンケート等も参考に年2回程度、1～2名の異動を行っている。「皆に声をかけてもらえて良い」との意見もあり、異動による利用者への影響は個々に配慮するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・段階に応じた外部研修への参加 ・内部勉強会は毎月1回実施、法人全体の勉強会は1回/月実施 ・段階に応じた資格取得研修への参加  (外部評価) やさしさ・明るさ・元気さ・やる気を尊重し、ホーム内と法人内で定期的に月に1回ずつ研修会を開催している。外部研修は職員ごとのレベルに応じた内容に、参加費は部分的にホーム持ちで参加している。研修参加後は報告書を提出し、内容を他の職員に伝達している。新規採用時は各項目でマニュアルに沿って指導している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・研修会等で意見交換したり電話等での意見交換をしている  (外部評価) 同法人の3つのホームとは職員や利用者も交流している。他のホームとは会議や研修会への参加等で、管理者同士の交流や情報交換を通じて具体的に学び合っている。他法人でも親しい施設が数か所あり、交流の機会を設けている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ・年に何度か職員間の交流を図るレクの実施 ・定期的な面談をおこなったり、職員から申し出があった時には、時間をとり話をし対応している ・年1回自己評価の実施		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) ・定期的な面談や日頃の勤務状況に対して話す機会がある		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ・まず本人面談を行い、出来る限り詳細な情報と現在の状況を把握するようにしている		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ・運営規程及び重要事項にそって当施設の内容を説明し、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを理解するようにしている ・食事を一緒にしたり、宿泊できることの説明をし、職員の対応等を実際に見てもらおう		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人家族が望んでいることをケアプランに取り入れ実施する		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ・見学时、利用するまでに何度か当施設に来てもらい、職員他入居者とお茶を飲んだり会話したりと体験利用し、入居につなげている  (外部評価) 何度か訪問してもらい、他の利用者とお茶を飲んだり会話をしながら馴染めるように配慮している。同法人の他施設からの利用となる場合はすでに顔馴染みになっていることが多い。家族の情報や協力を大切にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方、料理（材料の切り方、材料、味付）等を会話の中から学び一緒に実施する ・本人の希望にそった外出の実施（墓参り、自宅外出等)  (外部評価) 家族の情報や日頃の生活から本人のリズムを把握し、個々に合わせた支援を心がけている。身体機能の低下があっても意欲があれば参加できるようなプログラムなどにも工夫している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・生活支援型ケアプランの活用（定期的な病院受診、理美容院への外出、墓参り、自宅への外出等)		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ・本人、ご家族が疎遠にならないよう支払は窓口にて実施し、その際に面会をしていただく ・本人の状態を電話連絡やハガキで知らせる		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・理容美容院への外出 ・お墓参り、自宅への外出 ・知人、友人の訪問 ・同窓会等への参加		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し、入居者の性格、行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している ・仲の良い方がソファで会話したり堀ゴタツでお茶を飲んだりでできるよう配慮する		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) ・現在どのような生活を送られているか等ケアマネを通して情報を得る		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・何をしたいのか、外出はどこに行きたいのか、会いたい人等、情報を集め、本人・家族・職員で話し合い、ケアプラン立案時に取り入れるようにしている  (外部評価) 家族の協力や職員の情報共有により、本人の希望が表出できる支援を心がけている。行きたい所、会いたい人、楽しみごとなどについて、時には家族の協力も得ながら実現に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを利用し、情報収集をし、職員間で共有してケアプランに取り入れ実施している		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ・日々の状態を観察し、カルテへ記入(状態を共有) ・残されている能力をいかせる生活支援の実施(せんたく物たたみ、清掃、材料切等)		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ・ケアプラン立案時、6ヶ月毎、変更があった時、担当者会議の実施(本人・家族・ケアマネ・計画作成担当者・職員が参加)  (外部評価) 事前に本人や家族の意見を聞いており、利用者の担当者が中心になって介護計画を立て、カンファレンスで検討して作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ・月2回、3ヶ月、6ヶ月と定期的に評価、見直しをしている、その都度家族の参加は連絡により対応している  (外部評価) 計画の評価は月2回・3か月・6か月と定期的に行っている。必要に応じてカンファレンスで計画を見直ししており、家族へもカンファレンスへの参加を呼びかけているがまだ参加が充分とは言えず、今後も継続して取り組む予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・記録は毎日残し、個別記録に記入している ・見直し評価時活かしている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ・家族宿泊、面会、外出、ユニット替え等、本人・家族の状況に応じ対応している  (外部評価) 家族の宿泊・自宅訪問・墓参り・公民館活動・個々の外出・病状の変化への対応等、家族と協働しながら、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ・運営推進会議へ民生委員・入居者・家族・近隣者・包括支援職員・市役所職員・職員で実施、内容により警察・消防・小中学校の先生に参加依頼をする		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ・安寿荘デイサービスへの通所		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) ・運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをもらっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ・主治医、協力病院と連携を密に取り適切に医療を受けている  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を利用している。また、協力医療機関との連携もとれており、管理者や看護職が中心となって関わり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) ・専門医の往診を受け、職員へのアドバイス、診断、治療を受けている(2回/月来居あり)		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ・常勤職員に看護職を配置し、常に連絡が取れ、適切なアドバイスを受けている ・日常の健康管理、医療活用の実施		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ・入院された場合は主治医と連携を密に取り情報交換や相談もし早期退院に向けて努力している(面会と出来る限り頻繁に主治医の意見を聞くようにしている)		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ・マニュアル作成し家族にも説明し理解を得て全員で方針を共有している  (外部評価) 利用開始時や状態の変化に合わせて、早い時期から話し合っている。職員はマニュアルを通じて理解しているが、実際の対応事例が少なく不安はある。ただ、本人や家族の希望があってホームで対応できる状況であれば真摯に対応したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ・マニュアルの作成 ・入居時家族への説明 ・重度や終末期に向けてスムーズに進められるよう職員教育及び準備をしている		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ・必要時他の事業所等と情報交換をしていく ・本人が混乱をおこさないよう職員も協力し住み替えによるダメージを防ぐ		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ・日常話し方には十分注意しケアしている ・個人情報の管理マニュアルに沿って、職員一人一人がきちんとしている  (外部評価) 職員は、接遇をはじめ個々の利用者の誇りを大切にすることを学習し、互いに注意し合っている。記録類は個人情報に配慮して適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたりわかるよう説明をおこない、納得し暮らせるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに対して耳を傾け、希望にそったケアを実施している ・生活支援型ケアプランの活用  (外部評価) 一人ひとりのペースを尊重しており、ホームとしてある程度のスケジュールはあるが、基本的に本人の希望に応じた支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ・いきつけの店での散髪の実施 ・本人が選ぶことが出来る方は選んでもらう ・外出できない方は、定期的に訪問してもらい散髪を実施  (外部評価) 献立は利用者の希望を取り入れながら職員が一週間ごとに作成しているが、頂き物等の都合で変更することもある。3ユニット毎に献立はまちまちで、食事形態も個々に工夫している。食材の買出し、作物の収穫、簡単な調理、配膳や片付け等、希望や力に応じて役割を持ってもらっている。必要に応じて酒やタバコを楽しむことも支援することがある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人に合った食事の提供をおこなっている ・下準備、片付けも一緒にしている  (外部評価) 献立は利用者の希望を取り入れながら職員が一週間ごとに作成しているが、頂き物等の都合で変更することもある。3ユニット毎に献立はまちまちで、食事形態も個々に工夫している。食材の買出し、作物の収穫、簡単な調理、配膳や片付け等、希望や力に応じて役割を持ってもらっている。必要に応じて酒やタバコを楽しむことも支援することがある。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ・行事には、ビール・お酒を準備し飲んでもらう ・個人で持って来られる方もおり、家族と相談し飲んでもらう ・喫煙場所を決め自由に吸えるよう管理は職員がする		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズにできるよう支援している ・その人に合ったオムツの使用		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ・週2回の入浴実施 ・その人の希望の時間帯の入浴実施 ・季節に応じた入浴の工夫（ゆず湯等）  (外部評価) 週2回以上を基本としているが、毎日希望する方、汗をかいた時、汚れた時等、個別に対応している。次第に身体機能が低下しているため、支援の方法にさらなる工夫が必要となっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) ・その人にあつた時間に就寝し起きてもらうよう配慮している ・1時間毎の巡回の実施（利用者の安眠をさまたげないよう） ・自由に各居室に帰り休息してもらう		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ・ドライブ、外食は希望に応じて実施 ・一人一人の力が発揮できるよう役割をみつける（洗濯ほし、たたみ、材料切り、食器洗い、清掃等） ・レク活動への参加を呼びかけている（詩吟、カラオケ、お花、押し花等）  (外部評価) 日々の生活の中で把握したことから、具体的に楽しみ等を見つけるように努めている。ドライブ・カラオケ・伊予漫才を共に楽しんだり、絵・押し花・詩吟・お花の稽古、話し相手等ボランティア等の活動を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時等、力に応じて自分で管理し、支払うよう支援している ・喫茶あんの利用（自己負担金にて支払う）		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ・毎日の買物に入居者1名～2名と職員が出かける ・希望があれば職員、家族の対応で実施している ・個々の散歩も自由に行っている  (外部評価) 個々の散歩や買い物はできるだけ自由に行っている。危険な場所をチェックしたり、警察や近くにある同法人他施設に写真や本人の情報を伝えている。次第に身体機能が低下しており、車いすを利用したり、天候への配慮の必要性が増すなど制限が出てきている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ・季節に応じた場所への外出の実施 ・自宅外出、外泊、墓参りには家族、職員が対応し実施している		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る方は見守りをおこなう ・話だけしたい方には職員が手伝い支援している ・手紙がきたら職員が読み本人に聞かせてあげる		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ・気軽に訪問してもらいお茶を出しゆっくりと過ごしてもらおう（各居室でもリビングでも利用可）		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・研修会や勉強会等を通し、正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・玄関には昼間鍵をかけず、出入り自由になっている ・居室にも鍵はない  (外部評価) 夜間以外は鍵を掛けておらず、日中は自由に出入りできる。ユニットごとに玄関があり、1か所の玄関とフロアは地域の方にも開放している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ・職員間で連携を密に取り、利用者の所在確認をし、安全に配慮している		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) ・すべての物を取り除くのではなく、職員が注意し危険を防ぐ取り組みをしている ・出来るだけ家庭に近づけることを心がけている		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ・ヒヤリハットを通し、カンファレンスをおこない事故につながらないように取り組んでいる ・事故防止委員会の設置、看護、介護マニュアルによる職員教育		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・勉強会実施 ・常に看護師と連絡が取れるようにしている		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ・マニュアル作成し全職員が常に把握している ・避難訓練は年2回実施、近隣にも参加を呼びかけている  (外部評価) 年2回の防災訓練を消防署の指導の下で実施している。近所の片にはチラシ持参で参加を呼びかけている。近隣には同法人施設が充実しており、避難場所や避難時の協力が得られる。マニュアルも作成しているが、連絡網の整備は今後の取り組み課題となっている。	※	今後はより具体的に、火災だけでなく非常災害時の対策を検討したり連絡網を整備して、災害時の対応がより確実なものとなるよう取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ・家族へ十分説明し理解を得る ・ヒヤリハット内容を全ユニットで共有している ・日中居室、リビングにて過ごしたり、散歩に行ったり、クラブ活動も自由に参加してもらう		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) ・日々の状態を把握しカルテに記入 ・診察が必要な時は主治医、家族に速やかに連絡をとり対応している		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・定期的に処方されている内容を全職員が把握する ・服薬確認は職員が行う ・必要に応じて医師に指示を受ける		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) ・毎日チェックをし記録している ・運動、食事、水分補給に努め排便がスムーズに出来るように努力している ・内服薬の調整を行っている ・散歩を行っている		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・必要に応じて歯科受診		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食事時、10時・3時の水分補給（1500ml / 日目安） ・摂取量のチェック表への記入  (外部評価) 日々の食事摂取量をチェックし、毎食時と10時、3時には水分摂取して必要量の確保に努めている。時々には摂取カロリーや栄養バランスを数値として把握してチェックするようにしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・勉強会の実施 ・清掃の徹底、手洗いうがいの徹底		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ・毎日の調理器具の消毒、清掃 ・毎日買物に行き、肉・野菜はメニューに応じて新鮮なものを買って使用する。魚は配達してもらって使用している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ・玄関には花を植え、周辺にも植木があり玄関戸も家庭と同様の物を使用		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内、リビング等、カーテンやレースカーテンは光や音に配慮し、又、リビングには季節のかわりをつけ、居心地よく過ごせるようにしている  (外部評価) ゆったりして床暖房が設置されたリビングは、動きやすいようにテーブルを配置しており、季節の飾りはすっきりしている。畳コーナーの掘りコタツやソファはそれぞれに寛ぐことができる。トイレや浴室はゆったりとしており、要所に手すりを配して安全にも配慮している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている ・リビングにはソファを置き、たたみの所は堀ゴタツがある		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には馴染みの家具を持参してもらい家族の写真を飾ったりし、居心地良く生活できるよう工夫している  (外部評価) 仏壇・タンス・衣装ケース・写真や絵・趣味の作品・テレビ等、利用者それぞれに使い慣れた物や趣味の品を持ち込み、馴染みある居室となっている。押入れ等の整理は家族や職員が手伝って季節ごとに対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ・1日に何度か換気を実施 ・冷暖房・床暖の温度調整の実施(冬期20℃ 夏期28℃)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には手すりの設置 ・バリアフリーの作りなど、出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) ・見やすいカレンダーの設置 ・混乱をしないよう職員が声かけ見守りを常にしている		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ・外に散歩に出かけたり、敷地内での畑仕事と一緒にったりしている		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	・ケアプラン作成時、一人一人の情報を本人や家族より収集し、本人の思いや願い暮らし方を十分考え作成し実行している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	・お茶を飲んだり、会話をしたり、ソファに座りテレビを見たりし、また、散歩をしたりして過ごす時間を作っている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・日中居室、リビングにて過ごしたり散歩したりと自由に過ごしている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・本人にあった支援をするよう手を出しすぎず出来ないことは介助するようにしている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・外に出て行きたい方には職員がついて行ったり、車で行かないと行けないところは時間等を考慮し対応している ゆるす限り家族と一緒に外出できるよう連絡し、協力を得ている
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・毎日理事長(医師)の訪問もあり、何かあれば協力医療機関との連携も24時間取れるようになっている また、看護師と24時間連携をとれるようにしている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ケアプラン作成時、担当者会議時に要望を聞き、プランに取り入れ支援している
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	・家族会、面会、電話連絡時等、職員から何気なく声かけをしたり、担当者会議等を利用し話を聞くようにしている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	・入居相談時、面会時間を説明し気軽に面会できるようにしている

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	・運営推進会議を通しグループホームを十分理解してもらっている ・行事への参加の呼びかけをおこなっている
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ユニット会をおこない、一人一人が意見を言える場を持っている ・笑いが多く職員が協力し仕事できている ・休みの希望も月2回取り入れリフレッシュする
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ケアプラン評価時等の話の中で満足してもらっている ・外出評価のアンケート等からも満足してもらっている ・外部の方達に入居者が明るく生き生きしている等、評価をいただく
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	・ケアプラン評価時、家族会等の話の中で満足してもらっている ・外部評価のアンケート等からも満足していただいている結果を得ている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・職員が明るく楽しく仕事ができそれが一人一人のケアにも活かされている。(職員の入れ替わりが少ない)
- ・常に理念、運営方針を頭におき、満足していただける施設づくりをおこなっている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 GHあんじゅ

(ユニット名) なごみ

記入者(管理者)  
氏名 野田 淳子

評価完了日 平成 20 年 9 月 1 日



(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ・理念、運営方針を誰もが見える場所へ掲示している ・H20.8月末に、GH独自の理念完成予定  (外部評価) 職員全員で検討を重ね、地域との関わりの中でその人らしい生活を支えていく理念をつくっている。平成20年9月に完成したばかりであり、今後は共有を図りながら具体的に進めていきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・理念、運営方針をかかげ1回/週復唱している ・ケアプラン立案時にも取り入れ実践している  (外部評価) 玄関や居間に理念や方針を掲げ、ミーティングや会議で機会あるごとに確認し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ・入居申込時、見学時パンフレットにて説明している ・運営推進会議での説明 ・各ユニットに掲示する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ・朝、夕顔を合わせた時や散歩時に挨拶をする ・行事への参加の呼びかけ（ポスターの掲示） ・運営推進会議への参加	※	・クラブ活動や行事等のポスターを近くのスーパー、施設に貼り参加を呼びかける
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ・ボランティア委員会を通しての久枝校区文化祭、地域清掃への参加 ・月1回の高木集会所へカラオケ参加（地域のお年寄りとの交流）  (外部評価) 地域の文化祭や清掃活動に参加している。月一回の集会所でのカラオケ大会は地域のお年寄りとの交流の場となっている。ホームの前が中学校の通学路で、体験学習の受け入れ後の訪問もあり、子どもたちの登下校時の見守りも計画している。近所の方の理解があり、作物の行き来があったり見守りをしてもらうこともある。	※	・通学路に立ち子供の見守りを入居者・職員とでおこなってみる ・野菜の販売
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ・運営会議の実施 ・ボランティア委員会を通しての地域の行事（久枝地区文化祭）、清掃に参加する ・和気小学校生徒との交流	※	・詩吟、お花、押し花クラブへの地域の方への参加を呼びかける（ポスターを貼る）
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ・毎年自己評価、外部評価を実施し結果をふまえ改善点を職員間で話し合い取り組んでいる  (外部評価) 職員は自己評価することで、より評価の理解が深まっている。この一年は理念の検討を続け、ホームの振り返りや支援の方向性をまとめ、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・運営推進会議での意見、内容をまとめサービスの向上に活かしている  (外部評価) 会議の案内は前もって議題を提示し、意見を出してもらっている。内容によっては消防署・警察・学校・地域代表者等へも参加を働きかけている。提案や意見はできるだけ速やかに対応するようにしている。内容によっては職員間で共有し、日々の支援に活かしている。	※	・1年間の内容を決めその時の内容に応じ消防署、警察、小学校の先生方等、メンバー以外の方にも参加してもらい意見を聞く
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ・研修会への参加 ・電話でのやり取り等  (外部評価) 時々の情報交換をはじめ、種々の手続きで行き来する機会を設けて連携を図っており、実習も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・研修に参加し、学ぶ機会を持ち、必要な方には説明するようにしている		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待についての勉強会をおこなったり、虐待がない施設作りを実施している ・マニュアル作成 ・研修会への参加 ・虐待に関する自己評価の実施(年2回、6月、12月)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・入居時、十分な説明をし理解を得る ・定期的に家族と話をする機会をもうけている		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・日頃の会話を大切に話を十分聞くようにしている ・ユニット会、カンファレンスを通し解決している ・利用者が意見を言える、会の開催		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・入居者専用の小づかい張できちんと管理し、家族来所時説明しているあ(8月・12月家族確認の実施) ・来所持、ケアプラン説明時密に連携を取っている  (外部評価) 家族等の来訪は多く、情報交換はその都度できている。家族等のおられない方もいるが、個々に工夫しながら連絡、報告している。来訪時のほか、その都度電話や手紙等で報告している。金銭の自己管理が難しい利用者については、出納帳を家族に確認してもらうようにしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・アドバイスボックスの設置、苦情解決マニュアルを作成し体制を整えている ・入居相談時、家族に説明している ・家族会の実施  (外部評価) 家族との情報交換時の意見等は職員間で共有し、検討している。家族会は4か月に1回開催している。利用開始時にはホーム内外への相談苦情申し立ての方法も説明し、苦情マニュアルも作成している。玄関には「アドバイスボックス」も設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・ユニット会やカンファレンス等話し合う機会をもうけ意見を聞き検討している ・年2回の面談の実施		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ・3ユニットの職員が常に協力体制にある ・カンファレンスの実施		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ・異動は年2回各ユニット1名づつとしている ・なるべく馴染みの関係を大切に利用者のダメージを少なくするよう配慮し実施している ・家族へも意見を聞く  (外部評価) 職員の退職はあまりなく、異動については家族へのアンケート等も参考に年2回程度、1～2名の異動を行っている。「皆に声をかけてもらえて良い」との意見もあり、異動による利用者への影響は個々に配慮するよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・段階に応じた外部研修への参加 ・内部勉強会は毎月1回実施、法人全体の勉強会は1回/月実施 ・段階に応じた資格取得研修への参加  (外部評価) やさしさ・明るさ・元気さ・やる気を尊重し、ホーム内と法人内で定期的に月に1回ずつ研修会を開催している。外部研修は職員ごとのレベルに応じた内容に、参加費は部分的にホーム持ちで参加している。研修参加後は報告書を提出し、内容を他の職員に伝達している。新規採用時は各項目でマニュアルに沿って指導している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・研修会等で意見交換したり電話等での意見交換をしている		
			(外部評価) 同法人の3つのホームとは職員や利用者も交流している。他のホームとは会議や研修会への参加等で、管理者同士の交流や情報交換を通じて具体的に学び合っている。他法人でも親しい施設が数か所あり、交流の機会を設けている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ・年に何度か職員間の交流を図るレクの実施 ・定期的な面談をおこなったり、職員から申し出があった時には、時間をとり話をし対応している ・年1回自己評価の実施		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) ・定期的な面談や日頃の勤務状況に対して話す機会がある		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ・まず本人面談を行い、出来る限り詳細な情報と現在の状況を把握するようにしている		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ・運営規程及び重要事項にそって当施設の内容を説明し、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを理解するようにしている ・食事を一緒にしたり、宿泊できることの説明をし、職員の対応等を実際に見てもらおう		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・本人家族が望んでいることをケアプランに取り入れ実施する		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ・見学時、利用するまでに何度か当施設に来てもらい、職員他入居者とお茶を飲んだり会話したりと体験利用し、入居につなげている  (外部評価) 何度か訪問してもらい、他の利用者とお茶を飲んだり会話をしながら馴染めるように配慮している。同法人の他施設からの利用となる場合はすでに顔馴染みになっていることが多い。家族の情報や協力を大切にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ・清掃の仕方、料理（材料の切り方、材料、味付）等を会話の中から学び一緒に実施する ・本人の希望にそった外出の実施（墓参り、自宅外出等）  (外部評価) 家族の情報や日頃の生活から本人のリズムを把握し、個々に合わせた支援を心がけている。身体機能の低下があっても意欲があれば参加できるようなプログラムなどにも工夫している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・生活支援型ケアプランの活用（定期的な病院受診、理美容院への外出、墓参り、自宅への外出等）		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ・本人、ご家族が疎遠にならないよう支払は窓口にて実施し、その際に面会をしていただく ・本人の状態を電話連絡やハガキで知らせる		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・理容美容院への外出 ・お墓参り、自宅への外出 ・知人、友人の訪問 ・同窓会等への参加		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ・日頃のケアを通し、入居者の性格、行動を十分把握しトラブルにならないよう配慮している ・仲の良い方がソファで会話したり堀ゴタツでお茶を飲んだりでできるよう配慮する		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) ・現在どのような生活を送られているか等ケアマネを通して情報を得る		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・何をしたいのか、外出はどこに行きたいのか、会いたい人等、情報を集め、本人・家族・職員で話し合い、ケアプラン立案時に取り入れるようにしている  (外部評価) 家族の協力や職員の情報共有により、本人の希望が表出できる支援を心がけている。行きたい所、会いたい人、楽しみごとなどについて、時には家族の協力も得ながら実現に向けて取り組んでいる。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ケアプラン情報シートを利用し、情報収集をし、職員間で共有してケアプランに取り入れ実施している		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ・日々の状態を観察し、カルテへ記入(状態を共有) ・残されている能力をいかせる生活支援の実施(せんたく物たたみ、清掃、材料切等)		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ・ケアプラン立案時、6ヶ月毎、変更があった時、担当者会議の実施(本人・家族・ケアマネ・計画作成担当者・職員が参加)  (外部評価) 事前に本人や家族の意見を聞いており、利用者の担当者が中心になって介護計画を立て、カンファレンスで検討して作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ・月2回、3ヶ月、6ヶ月と定期的に評価、見直しをしている、その都度家族の参加は連絡により対応している  (外部評価) 計画の評価は月2回・3か月・6か月と定期的に行っている。必要に応じてカンファレンスで計画を見直ししており、家族へもカンファレンスへの参加を呼びかけているがまだ参加が充分とは言えず、今後も継続して取り組む予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・記録は毎日残し、個別記録に記入している ・見直し評価時活かしている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ・家族宿泊、面会、外出、ユニット替え等、本人・家族の状況に応じ対応している  (外部評価) 家族の宿泊・自宅訪問・墓参り・公民館活動・個々の外出・病状の変化への対応等、家族と協働しながら、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ・運営推進会議へ民生委員・入居者・家族・近隣者・包括支援職員・市役所職員・職員で実施、内容により警察・消防・小中学校の先生に参加依頼をする		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ・安寿荘デイサービスへの通所		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) ・運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをもらっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ・主治医、協力病院と連携を密に取り適切に医療を受けている  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医を利用している。また、協力医療機関との連携もとれており、管理者や看護職が中心となって関わり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) ・専門医の往診を受け、職員へのアドバイス、診断、治療を受けている(2回/月来居あり)		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ・常勤職員に看護職を配置し、常に連絡が取れ、適切なアドバイスを受けている ・日常の健康管理、医療活用の実施		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ・入院された場合は主治医と連携を密に取り情報交換や相談もし早期退院に向けて努力している(面会と出来る限り頻繁に主治医の意見を聞くようにしている)		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ・マニュアル作成し家族にも説明し理解を得て全員で方針を共有している  (外部評価) 利用開始時や状態の変化に合わせて、早い時期から話し合っている。職員はマニュアルを通じて理解しているが、実際の対応事例が少なく不安はある。ただ、本人や家族の希望があってホームで対応できる状況であれば真摯に対応したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ・マニュアルの作成 ・入居時家族への説明 ・重度や終末期に向けてスムーズに進められるよう職員教育及び準備をしている		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ・必要時他の事業所等と情報交換をしていく ・本人が混乱をおこさないよう職員も協力し住み替えによるダメージを防ぐ		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ・日常話し方には十分注意しケアしている ・個人情報の管理マニュアルに沿って、職員一人一人がきちんとしている  (外部評価) 職員は、接遇をはじめ個々の利用者の誇りを大切にすることを学習し、互いに注意し合っている。記録類は個人情報に配慮して適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ・日々の会話の中で、希望を聞いたりわかるよう説明をおこない、納得し暮らせるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・日々の本人の訴えに対して耳を傾け、希望にそったケアを実施している ・生活支援型ケアプランの活用  (外部評価) 一人ひとりのペースを尊重しており、ホームとしてある程度のスケジュールはあるが、基本的に本人の希望に応じた支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ・いきつけの店での散髪の実施 ・本人が選ぶことが出来る方は選んでもらう ・外出できない方は、定期的に訪問してもらい散髪を実施  (外部評価) 献立は利用者の希望を取り入れながら職員が一週間ごとに作成しているが、頂き物等の都合で変更することもある。3ユニット毎に献立はまちまちで、食事形態も個々に工夫している。食材の買出し、作物の収穫、簡単な調理、配膳や片付け等、希望や力に応じて役割を持ってもらっている。必要に応じて酒やタバコを楽しむことも支援することがある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・毎日のメニューの工夫や、その人に合った食事の提供をおこなっている ・下準備、片付けも一緒にしている  (外部評価) 献立は利用者の希望を取り入れながら職員が一週間ごとに作成しているが、頂き物等の都合で変更することもある。3ユニット毎に献立はまちまちで、食事形態も個々に工夫している。食材の買出し、作物の収穫、簡単な調理、配膳や片付け等、希望や力に応じて役割を持ってもらっている。必要に応じて酒やタバコを楽しむことも支援することがある。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ・行事には、ビール・お酒を準備し飲んでもらう ・個人で持って来られる方もおり、家族と相談し飲んでもらう ・喫煙場所を決め自由に吸えるよう管理は職員がする		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ・個々の排泄パターンを把握し排泄がスムーズにできるよう支援している ・その人に合ったオムツの使用		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ・週2回の入浴実施 ・その人の希望の時間帯の入浴実施 ・季節に応じた入浴の工夫（ゆず湯等）  (外部評価) 週2回以上を基本としているが、毎日希望する方、汗をかいた時、汚れた時等、個別に対応している。次第に身体機能が低下しているため、支援の方法にさらなる工夫が必要となっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) ・その人にあった時間に就寝し起きてもらうよう配慮している ・1時間毎の巡回の実施（利用者の安眠をさまたげないよう） ・自由に各居室に帰り休息してもらう		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ・ドライブ、外食は希望に応じて実施 ・一人一人の力が発揮できるよう役割を見つける（洗濯ほし、たたみ、材料切り、食器洗い、清掃等） ・レク活動への参加を呼びかけている（詩吟、カラオケ、お花、押し花等）  (外部評価) 日々の生活の中で把握したことから、具体的に楽しみ等を見つけるように努めている。ドライブ・カラオケ・伊予漫才を共に楽しんだり、絵・押し花・詩吟・お花の稽古、話し相手等ボランティア等の活動を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・外出時等、力に応じて自分で管理し、支払うよう支援している ・喫茶あんの利用（自己負担金にて支払う）		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ・毎日の買物に入居者1名～2名と職員が出かける ・希望があれば職員、家族の対応で実施している ・個々の散歩も自由に行っている  (外部評価) 個々の散歩や買い物はできるだけ自由に行っている。危険な場所をチェックしたり、警察や近くにある同法人他施設に写真や本人の情報を伝えている。次第に身体機能が低下しており、車いすを利用したり、天候への配慮の必要性が増すなど制限が出てきている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ・季節に応じた場所への外出の実施 ・自宅外出、外泊、墓参りには家族、職員が対応し実施している		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・自分で出来る方は見守りをおこなう ・話だけしたい方には職員が手伝い支援している ・手紙がきたら職員が読み本人に聞かせてあげる		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ・気軽に訪問してもらいお茶を出しゆっくりと過ごしてもらおう（各居室でもリビングでも利用可）		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・研修会や勉強会等を通し、正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・玄関には昼間鍵をかけず、出入り自由になっている ・居室にも鍵はない  (外部評価) 夜間以外は鍵を掛けておらず、日中は自由に出入りできる。ユニットごとに玄関があり、1か所の玄関とフロアは地域の方にも開放している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ・職員間で連携を密に取り、利用者の所在確認をし、安全に配慮している		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) ・すべての物を取り除くのではなく、職員が注意し危険を防ぐ取り組みをしている ・出来るだけ家庭に近づけることを心がけている		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ・ヒヤリハットを通し、カンファレンスをおこない事故につながらないように取り組んでいる ・事故防止委員会の設置、看護、介護マニュアルによる職員教育		




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・勉強会実施 ・常に看護師と連絡が取れるようにしている		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ・マニュアル作成し全職員が常に把握している ・避難訓練は年2回実施、近隣にも参加を呼びかけている  (外部評価) 年2回の防災訓練を消防署の指導の下で実施している。近所の片にはチラシ持参で参加を呼びかけている。近隣には同法人施設が充実しており、避難場所や避難時の協力が得られる。マニュアルも作成しているが、連絡網の整備は今後の取り組み課題となっている。	※	今後はより具体的に、火災だけでなく非常災害時の対策を検討したり連絡網を整備して、災害時の対応がより確実なものとなるよう取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ・家族へ十分説明し理解を得る ・ヒヤリハット内容を全ユニットで共有している ・日中居室、リビングにて過ごしたり、散歩に行ったり、クラブ活動も自由に参加してもらう		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) ・日々の状態を把握しカルテに記入 ・診察が必要な時は主治医、家族に速やかに連絡をとり対応している		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・定期的に処方されている内容を全職員が把握する ・服薬確認は職員が行う ・必要に応じて医師に指示を受ける		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) ・毎日チェックをし記録している ・運動、食事、水分補給に努め排便がスムーズに出来るように努力している ・内服薬の調整を行っている ・散歩を行っている		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食後の口腔ケアの実施 ・必要に応じて歯科受診		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・毎食時、10時・3時の水分補給 (1500ml / 日目安) ・摂取量のチェック表への記入  (外部評価) 日々の食事摂取量をチェックし、毎食時と10時、3時には水分摂取して必要量の確保に努めている。時々摂取カロリーや栄養バランスを数値として把握してチェックするようにしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) ・マニュアルによる職員教育 ・勉強会の実施 ・清掃の徹底、手洗いうがいの徹底		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ・毎日の調理器具の消毒、清掃 ・毎日買物に行き、肉・野菜はメニューに応じて新鮮なものを買って使用する。魚は配達してもらって使用している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ・玄関には花を植え、周辺にも植木があり玄関戸も家庭と同様の物を使用		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内、リビング等、カーテンやレースカーテンは光や音に配慮し、又、リビングには季節のかわりをつけ、居心地よく過ごせるようにしている  (外部評価) ゆったりして床暖房が設置されたリビングは、動きやすいようにテーブルを配置しており、季節の飾りはすっきりしている。畳コーナーの掘りコタツやソファはそれぞれに寛ぐことができる。トイレや浴室はゆったりとしており、要所に手すりを配して安全にも配慮している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・一人一人が自分の時間を大切にし仲の良い利用者とも思い思いに過ごせるようにしている ・リビングにはソファを置き、たたみの所は堀ゴタツがある		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・居室には馴染みの家具を持参してもらい家族の写真を飾ったりし、居心地良く生活できるよう工夫している  (外部評価) 仏壇・タンス・衣装ケース・写真や絵・趣味の作品・テレビ等、利用者それぞれに使い慣れた物や趣味の品を持ち込み、馴染みある居室となっている。押入れ等の整理は家族や職員が手伝って季節ごとに対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ・1日に何度か換気を実施 ・冷暖房・床暖の温度調整の実施(冬期20℃ 夏期28℃)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・廊下には手すりの設置 ・バリアフリーの作りなど、出来る限り家庭に近づけるよう必要に応じて段差あり		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) ・見やすいカレンダーの設置 ・混乱をしないよう職員が声かけ見守りを常にしている		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ・外に散歩に出かけたり、敷地内での畑仕事と一緒にったりしている		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	・ケアプラン作成時、一人一人の情報を本人や家族より収集し、本人の思いや願い暮らし方を十分考え作成し実行している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	・お茶を飲んだり、会話をしたり、ソファに座りテレビを見たりし、また、散歩をしたりして過ごす時間を作っている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・日中居室、リビングにて過ごしたり散歩したりと自由に過ごしている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・本人にあった支援をするよう手を出しすぎず出来ないことは介助するようにしている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・外に出て行きたい方には職員がついて行ったり、車で行かないと行けないところは時間等を考慮し対応している ゆるす限り家族と一緒に外出できるよう連絡し、協力を得ている
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・毎日理事長(医師)の訪問もあり、何かあれば協力医療機関との連携も24時間取れるようになっている また、看護師と24時間連携をとれるようにしている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ケアプラン作成時、担当者会議時に要望を聞き、プランに取り入れ支援している
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	・家族会、面会、電話連絡時等、職員から何気なく声かけをしたり、担当者会議等を利用し話を聞くようにしている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	・入居相談時、面会時間を説明し気軽に面会できるようにしている

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	・運営推進会議を通しグループホームを十分理解してもらっている ・行事への参加の呼びかけをおこなっている
98	職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ユニット会をおこない、一人一人が意見を言える場を持っている ・笑いが多く職員が協力し仕事できている ・休みの希望も月2回取り入れリフレッシュする
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	・ケアプラン評価時等の話の中で満足してもらっている ・外出評価のアンケート等からも満足してもらっている ・外部の方達に入居者が明るく生き生きしている等、評価をいただく
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	・ケアプラン評価時、家族会等の話の中で満足してもらっている ・外部評価のアンケート等からも満足していただいている結果を得ている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・職員が明るく楽しく仕事ができそれが一人一人のケアにも活かされている。(職員の入れ替わりが少ない)
- ・常に理念、運営方針を頭におき、満足していただける施設づくりをおこなっている。